

緑から学ぶ

森林浴といわれるように、木から発散される香り成分は、疲労回復や自律神経調整などにも効果があり研究が進んでいます。便利になると緑が失われやすい現代では、意識的に緑地を管理し、守り、増やしていくことが大切。これは、住みやすい環境を持続するため、地球温暖化を防ぐ大切な取組でもあります。



なんと、門の外に比べ、
敷地内の庭は
4℃*も低く過ごしやすい!
*令和5年7月みどり公園課にて計測



次の藍染めができる体験イベント 「保谷のアイ」

時 11月3日(祝)午前10時～午後3時

当時の暮らしが分かる民具や
藍玉づくりのパネル展示もあるので来てね!



高橋家屋敷林保存会の皆さんと

歴史から学ぶ

現在の保谷地区は、多品種少量生産の近郊農業で栄え、西東京市をはじめ東京都の台所を支えています。その歴史は、藍染めに必要なタデアイの栽培、保谷茶やたくあん漬けなど特産物が始まり。ジャパンプルーと呼ばれる「藍色」は、葉を「発酵」させた藍玉(染料)をつくることから知っていますか?その歴史を後世に伝えるため、下保谷の自然と文化を記録する会を中心に藍の栽培をしています。

手しごとから学ぶ

季節の手しごとは、大人から子どもに伝える生きる力と知恵。特に、指先を使う作業は、子どもは創造力、発想力やコミュニケーション力を養い、高齢者はフレイル予防にも。できあがった作品は持ち帰れるので、ぜひチャレンジを!



無料で体験!

竹灯籠や竹とんぼ、置時計、
卵の殻を使った干支置物



年4回の季節イベントは
12月9日(土)
詳細は12月1日号にて

西東京市の魅力は、 都会の便利さと田舎の原風景を併せ持っているところ!

保谷に戻ってくると「あー」って空を見上げて癒される。都会でいちばん空が広いんじゃない?そして夕日も綺麗。住んでいると当たり前風景も、都心でもまれて帰ってくるとご褒美感がありますね。

この特別緑地もその一つ。場所は知っていましたが、こんなにたくさんの体験ができるんですね。ふかふかの庭の土を踏む感じがすでに心地いい。それに、声を出して笑うって、大人になると周りに気を遣ったり、プライドや体裁を気にしてできなくなる。でも、ここでは童心に帰って自然と笑顔になる。五感を

フル活用しているから、不思議と爽快感もあるし、気づくと知らない人と話して笑って。心身ともにリフレッシュできますね。

それに、ボランティアの方々の知識の豊富さに驚きました。元学校の先生や保育士の方がいらっしゃると伺って納得です。ここは、大人も子どもも学ぶことが多いと思うので、皆さんに気軽に足を運んでほしいですね。



□プロフィール

林家久蔵(はやしやきゅうぞう)さん

西東京市下保谷出身。1992年落語家初代林家木久蔵師に入門し、「久蔵」を襲名。2006年に真打昇進。現在は落語のほか、講演、ナレーターなど幅広く活躍中。また、愛娘の通う学校でのPTA活動をきっかけに、文京区民生委員・児童委員・主任児童委員を務め、子育てや教育にも積極的に参加しています。

インタビュー記事は公式HPで公開中!



市HP